|  |
| --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（１年め）** |
| **１．事業計画の概要** |  |  |  |
| **学校名** | 大阪府立高槻北高等学校 |
| **取り組む課題** | 生徒の学力の充実 |
| **評価指標** | 1. 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間の向上
2. 学校教育自己診断における教員のICT機器の活用率の向上
3. 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上
 |
| **計画名** | 坂の上の学校から坂のふもとの家庭まで～全校Wi-Fiとタブレットで 授業のICT化を深め、家庭学習の増加で 生徒の学力向上へ～ |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** |  |  |  |
| **学校経営計画の****中期的目標** | （２）学力向上・進路目標実現のための３年計画（「北高スタンダード」）の活用を図る。エ 授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入等）を推進し、学力とりわけ思考力・表現力の伸長を図る。カ 平成29年度学校経営推進費により設置された電子黒板機能付きプロジェクターの導入により授業改革を行い、さらなる学力の向上を図る。 |
| **事業目標** | 「ICTを活用した授業改善」を強く推し進め、教員用タブレットと無線LAN（Wi-Fi）環境を導入することで、導入済みの電子黒板、書画カメラをより効果的・複合的に活用し、「見てわかる授業」「板書時間の削減」「机間巡視による個別指導の増加」「対話的授業」に取り組むことで授業の効率化と、生徒の思考力・表現力の伸長につなげる。さらに、２年め以降は、学情オープンネットに接続された無線LAN（Wi-Fi）環境を利用して、生徒がICT機器を活用して、家庭学習時間の報告集計、課題の授受、授業参加できる機会を増やし、生徒の自己管理能力の向上と思考力・表現力の伸長につなげる。そのことで、第１に、「生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間をR３年度は１年生70分以上、２年生80分以上、３年生240分以上とする。」を「H30年度（１年52分、２年56分、３年170分）より毎年１・２年は10分、３年は30分ずつ伸ばし、R３年度は１年生80分以上、２年生90分以上、３年生260分以上とする。」に変更、その実現をめざす。第２に、学校教育自己診断における『教員のICT機器の活用率の向上』をH30年度61％から、毎年５％引き上げ、R３年度以降は75％以上を維持する。」を付加し、その実現をめざす。第３に、新たに「外部学力調査における生徒（３年生）のGTZ平均値（国数英）をH30年度のC１ランクから毎年１ランク引き上げ、R２年度以後はB２ランクを維持する。」を付加し、その実現をめざす。 |
| **整備した****設備・物品** | * Windowsタブレット25台
* 普通教室（28教室）及び特別教室、体育館、職員室等（全30箇所）に無線LAN（Wi-Fi）アクセスポイントを設置
* 学情オープンネット（以下『ON』と略す）用サーバ 一式
 |
| **取組みの****主担・実施者** | 主担： 授業改革PT　（教頭・首席・教務主任・ICT委員長・各教科代表者）主担： オープンネットPT　（教頭・首席・総合調整部長・ICT委員長・生徒指導部・情報科等の教員）実施者： 全教員 |

|  |  |
| --- | --- |
| **本年度の****取組内容** | * 電子黒板プロジェクターの使用方法に関する新転任者向け基礎研修を実施。（４月）
* 授業改革PTによる３年間の取組み計画策定、ICT委員長を中心にオープンネットPTを設置、『ON』に関する各種検討の開始。（５月）
* 各教科での授業コンテンツの検討。Googleクラスルームへの登録と利用開始。（５～８月）
* オープンネットPTによる校内ネットワークの設計、『ON』の利用申請と各種NWSCへの依頼。（６月）
* ネットワークおよび情報セキュリティに関する校内職員研修を実施。（７月）
* 先行して職員室での教員IDによるWi-Fiおよび『ON』の運用開始。授業改革PTによるタブレット貸出選考基準の策定。（７月）
* 教室でのWi-Fi運用準備。各教科担当が提出したシラバス・授業案に基づきタブレット貸出の選考を実施。（８月）
* 教室でのWi-Fi運用開始。（９月）
* 導入機器を活用した実践事例をもとに職員研修実施。（10月）
* 高槻・島本地区初任者研修の幹事校として、導入機器を活用した実践事例をもとに初任者研修を実施。（10月）
* 授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証、授業改革PT及び各教科による次年度の計画案検討、『ON』運用見直し。（２月）
* 生徒向けWi-Fi利用と『ON』に関する校内職員研修。次年度タブレット貸出の選考を実施。（３月）
 |
| **成果の検証方法****と評価指標** | 1. 学校教育自己診断（生徒向け）平日の家庭学習時間

 １年60分、２年70分、３年200分1. 学校教育自己診断（教員向け）

 「ICTを活用した授業により、授業力の向上につなげた。」65%1. 学力到達度調査

 「３年生のGTZ平均値（国数英）」B３ランク |
| **自己評価** | 1. 学校教育自己診断（生徒向け）平日の家庭学習時間

H30年度 １年55分 ２年46分 ３年142分 → R１年度１年61分 ２年46分 ３年159分 （△）* １年生は目標に達したが、２・３年生は目標に達しなかった。ただし、３年生は昨年度より増加した。
1. 学校教育自己診断（教員向け）「ICTを活用した授業により、授業力の向上につなげた。」

H30年度　61% → R１年度　64% （○）* 昨年度より数値が上昇し、ほぼ目標値に達したといえる。
1. 学力到達度調査「３年生のGTZ平均値（国数英）」B３ランク

H30年度C１→ R１年度C１ （△）* 調査が実施されるのは毎年４月であるため、実際の効果についてはR２年度の結果によると考えられる。
 |
| **次年度に向けて** | 以下に掲げる取組みをより改善することで、評価指標の達成を図る。1. 生徒への情報セキュリティ指導。新着任者向けWi-Fi、オープンネットワーク、情報セキュリティ、電子黒板に関する校内研修。（４月）
2. 新入生のGoogleクラスルームへの登録、学力到達度調査により効果検証。（４月）
3. 教室学情ネットのクローズドからオープンネットワークへの転換作業開始。（５～８月）
4. 本校教諭の実践発表による校内職員研修。（８月）教職員相互の授業見学。（６月～10月）
5. 授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証、授業改革PT及び各教科による次年度の計画案検討、オープンネットワークの運用見直し。（２月）
 |